

令和2年度 新しい共通教育について学生と教員が語り合う会 「フクトーク」報告書

主催 福山大学大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学修の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデア等、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育が一層充実することを目指している。

●日 時： 令和2年12月9日（水）16時30分～18時

●場 所： 大学会館 3F ICT教室「CLAFT」

●テ ー マ： 教養教育科目E群（芸術と健康スポーツ）のあり方について

●参加学生

経済学部3名、人間文化学部1名、工学部2名、生命工学部1名、薬学部4名

計 11名 計 3グループ

●プログラム

16:30 全体説明

16:40 自己紹介（アイスブレイク）& 三役決定

16:50 ディスカッションの説明

16:55 SGD（スモール・グループ・ディスカッション）

17:35 グループ発表

17:50 講評・閉会の挨拶

17:55 集合記念撮影・アンケートの実施

18:00 解散

●スタッフ

大塚大学教育センター長、中尾教授、劉准教授、小野准教授、Lowes 講師、津田講師、Tang 助教、
記谷助教、日暮助手

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で9回となった。今回のテーマは、「教養教育科目E群（芸術と健康スポーツ）のあり方について」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去に開催された内容を載せた「フクトーク」のホームページも開設した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は3グループに分かれてSGD（スモール・グループ・ディスカッション）を行った。会場は、大学会館ICT教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、総合司会による趣旨説明と今回のテーマである「教養教育科目E群（芸術と健康スポーツ）」の学習目標等を確認した。続いてSGDの進め方について説明を行った。SGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、意見をまとめる発表者をグループ内で決めた。SGDでは、はじめに個々が受講した科目について、現状把握・現状分析として受講して良かった点、および改善点について対話を行った。次に、プロダクトのキーワードとして「学び、成長、芸術、健康、スポーツ」を基に新しい科目について、①意義（目的・理由）、②具体的な授業内容等を踏まえて提案してほしい旨を告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それを基にプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業を合わせて40分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。3つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

- (ア) マナー講座
- (イ) 家庭科
- (ウ) 授業を作る地域交流

次に①意義（目的・理由）、②具体的な授業内容を以下に示す。

- (ア) ①・社会人としてマナー力の向上
- ②・テーブルマナー
 - ・身だしなみ
 - ・敬語の正しい使い方
- (イ) ①・健康的に暮らすための余暇力・生活力の向上
- ②・釣り
 - ・料理（テーブルマナーも含む）、裁縫
- (ウ) ①・地域交流、コミュニケーション能力向上
- ②・地域の方とともに農業体験、料理、スポーツ（ヨガ、ゲートボール）
 - ・地域の課題を見つけて、問題解決の企画、実践、改善を行う

教養教育科目 E 群（芸術と健康スポーツ）は、「豊かな人間性とより良い生活を送るために、感性を育む創造的な芸術や健全でたくましい心身を培うスポーツに慣れ親しむとともに、健康維持・増進の知識を習得する。」を目的に実施されている。今回は E 群の授業内容をより充実させるために、科目および授業内容について提案をしてもらった。今回の「フクトーク」では、学生にとっては社会人としてのマナー力、生活力の向上、および地域の方との交流によるコミュニケーションの能力の向上と、大人として自立して生きていくために必要な力の向上を目的としたものを反映する提案が多い印象であった。

アンケート調査の結果を以下に示す。まず「フクトーク」に参加するに当たってのきっかけの質問として、問①「どのようにして知ったか?」、問②「参加の経緯」に関して、半数が「教員からの参加要請があったので知った」と、教員からの告知による影響が大きいことがわかる。

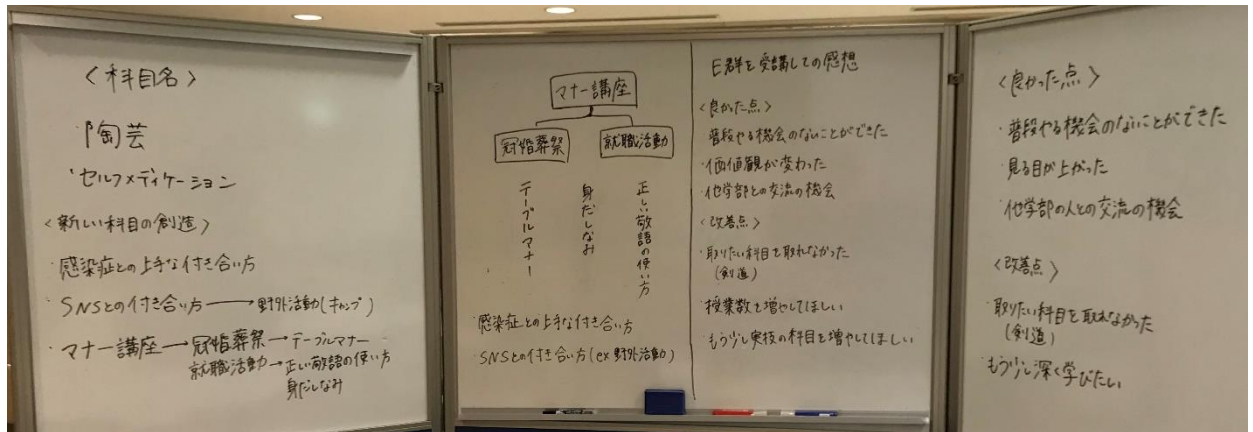
次に「フクトーク」に参加に対する質問として、問③「話し合いは有意義だったか?」に対して、64%が「非常に有意義であった」、36%が「比較的有意義であった」と参加者全員が有意義であったと感じていることがわかる。問④「自分の意見を十分に出せましたか?」に対して、64%が「十分に出せた」であった。問⑤「時間」に対して、46%が「適切であった」、27%が「もう少し短い方が良い」であった。問⑥「人数」に対して、82%が「適切」と回答していた。よって、個々の意見が出せ、また時間的にも、グループ構成人数ともに適切だったことから、参加者全員が有意義だと感じているものと推察する。

次に今後の実現性に対する問いとして、議論して提案した事柄に対しての問⑦「提案されたプロダクトの実現の是非」に対しては、64%が「実現してほしい」と回答していた。また問⑧「学生の意見を取り入れた新しい授業の提案」に対しては、全員が「学生の知的欲求を満たすためには、必要である」と回答していた。また問⑨「次回の「フクトーク」への参加」に対しては、「要請があれば考える」が46%、「是非参加したい」、「内容によっては参加しない」がそれぞれ27%であることから、授業内容に対して学生が主体的に考え、改善していきたいと考えていることがわかる。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げます。

●プロダクト (ア)

タイトル : マナー講座



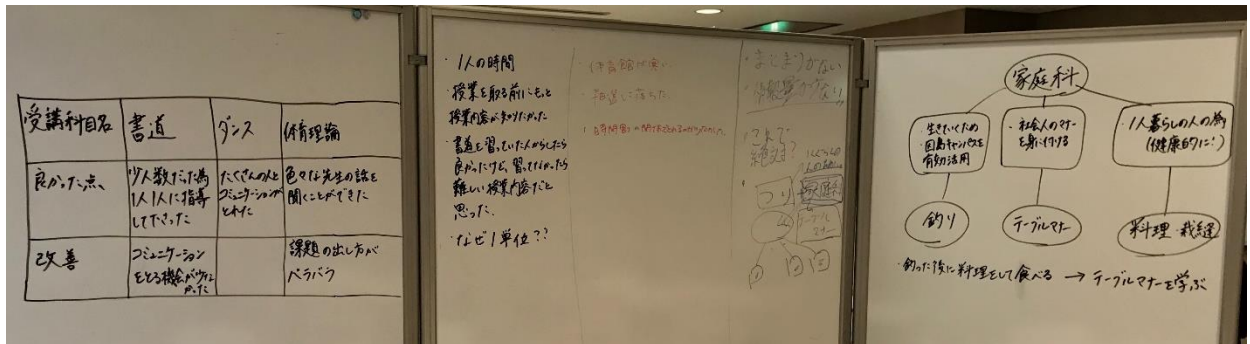
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (イ)

タイトル : 家庭科



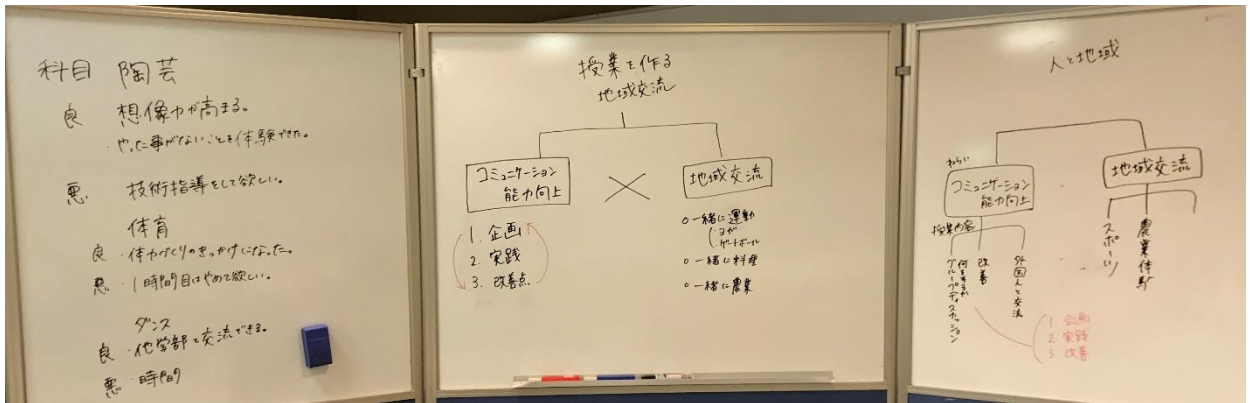
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (ウ)

タイトル : 授業を作る地域交流



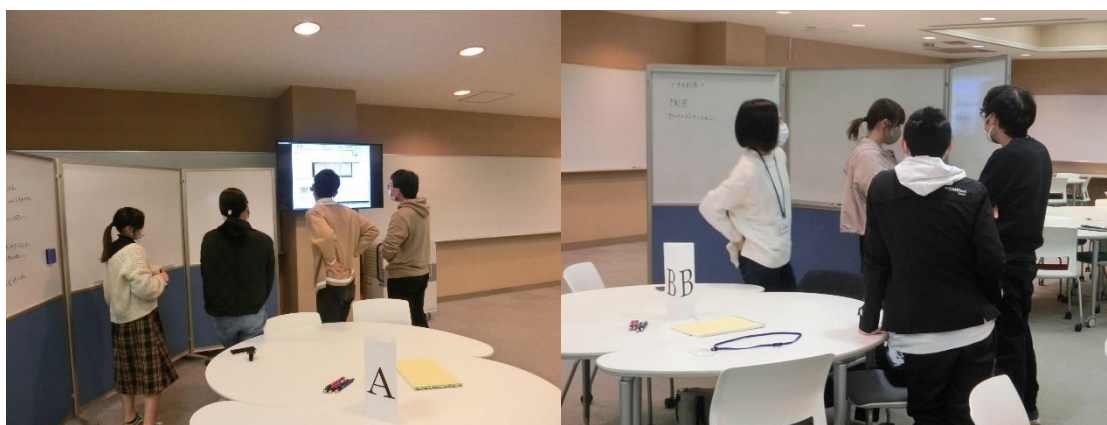
メモ (左)

まとめ

メモ (右)



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)



発表

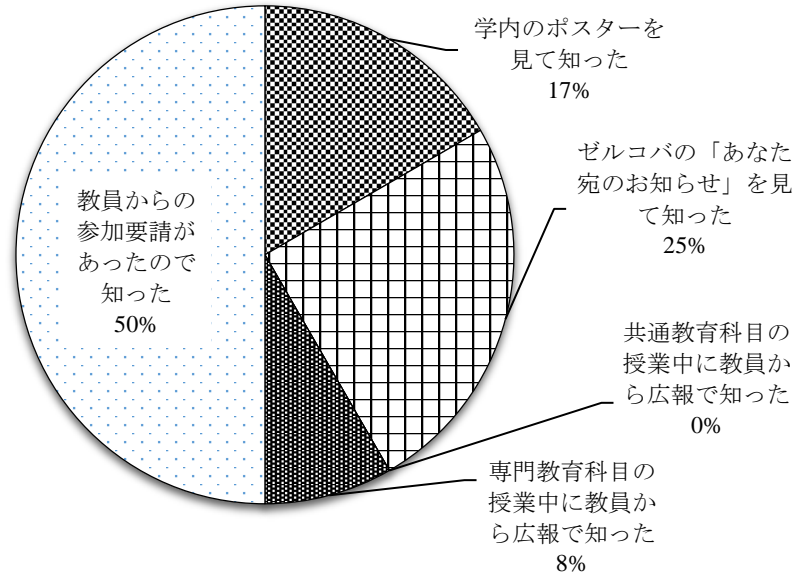


講評

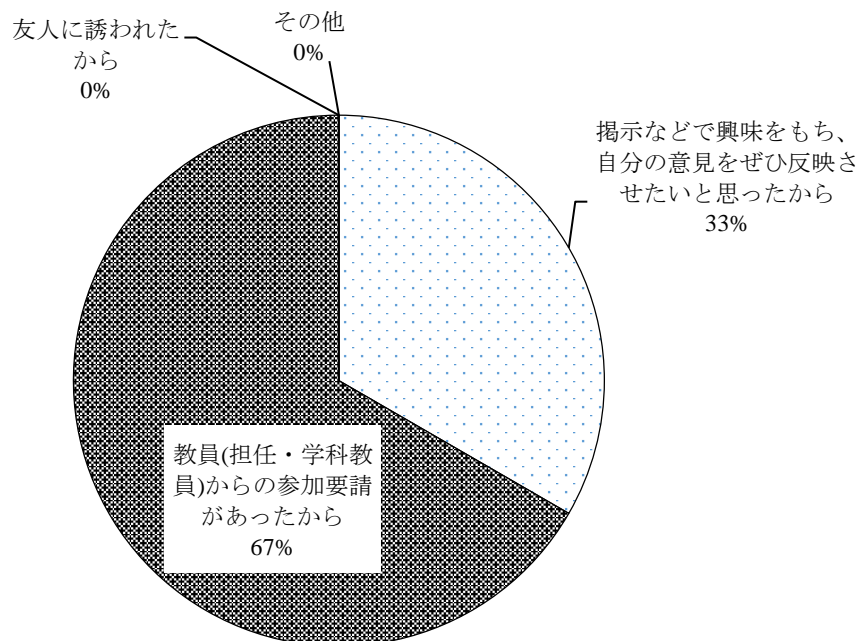
「フクトーク」参加者 アンケート集計結果

「フクトーク」参加者数 11名、 アンケート記入者数 11名

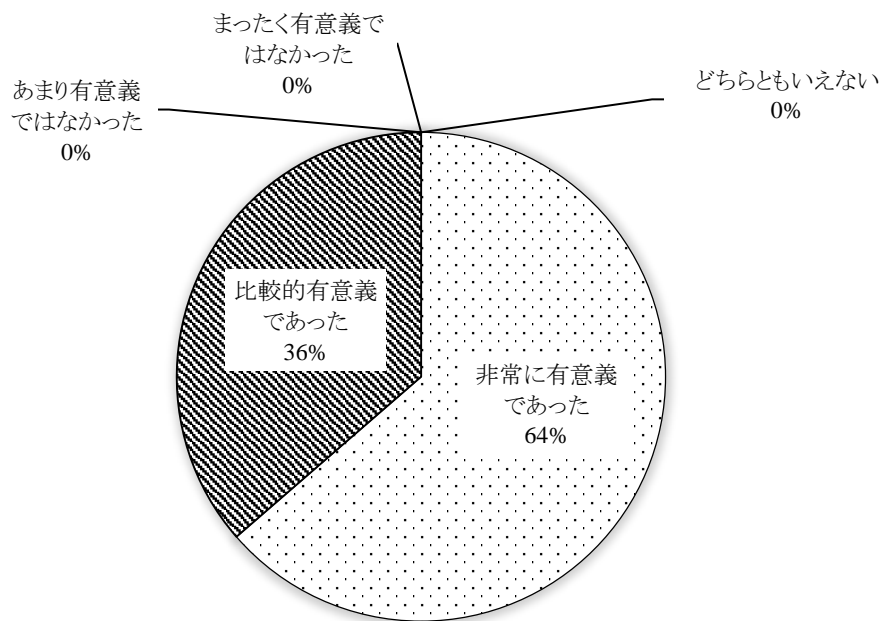
① 「フクトーク」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)



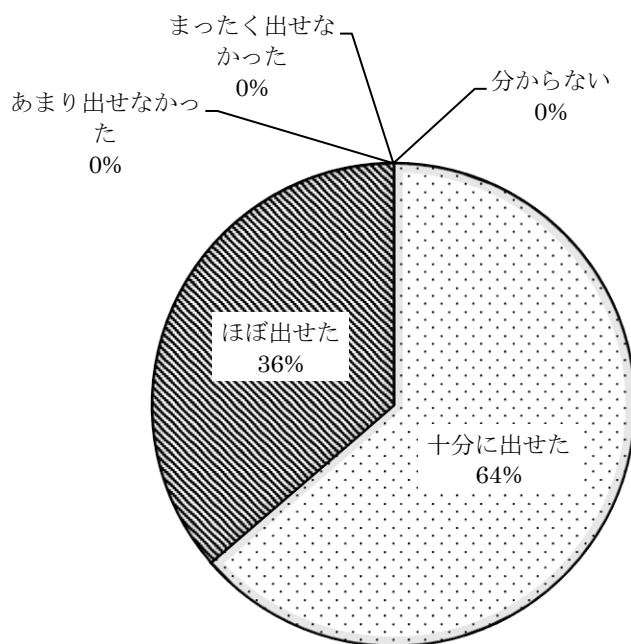
② 「フクトーク」への参加の経緯を教えてください。



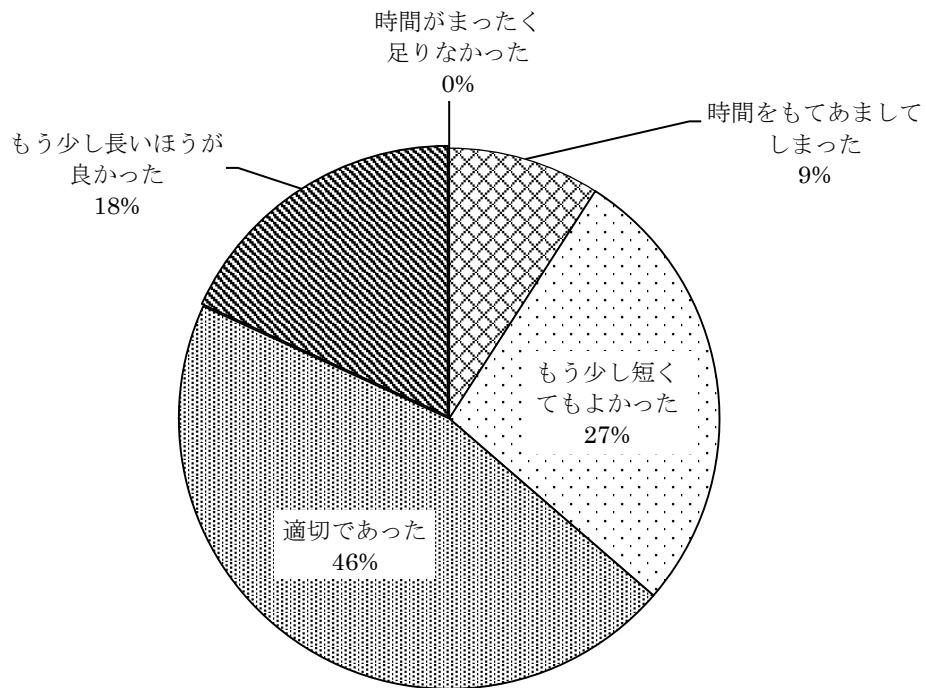
③ あなたにとって、「フクトーク」での話し合いは有意義でしたか。



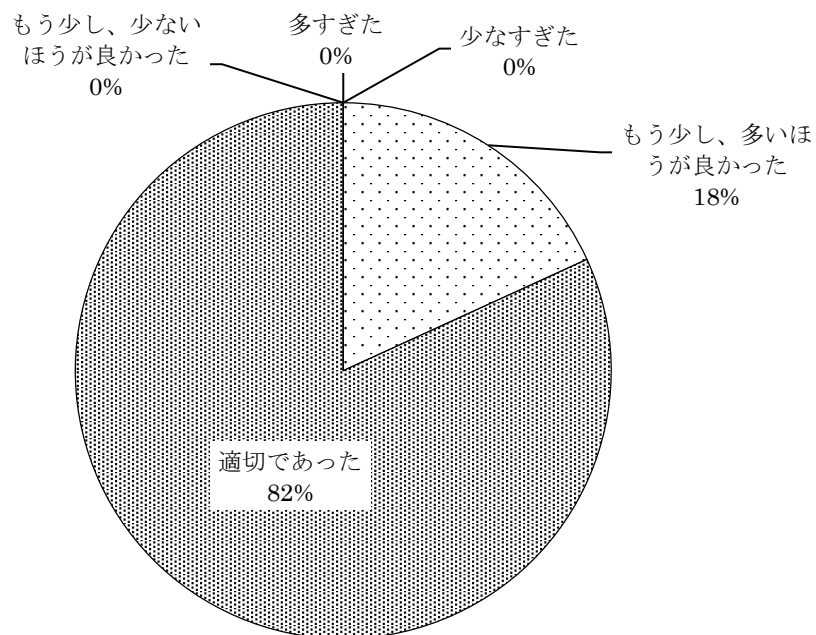
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



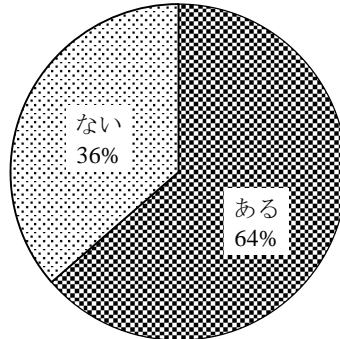
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

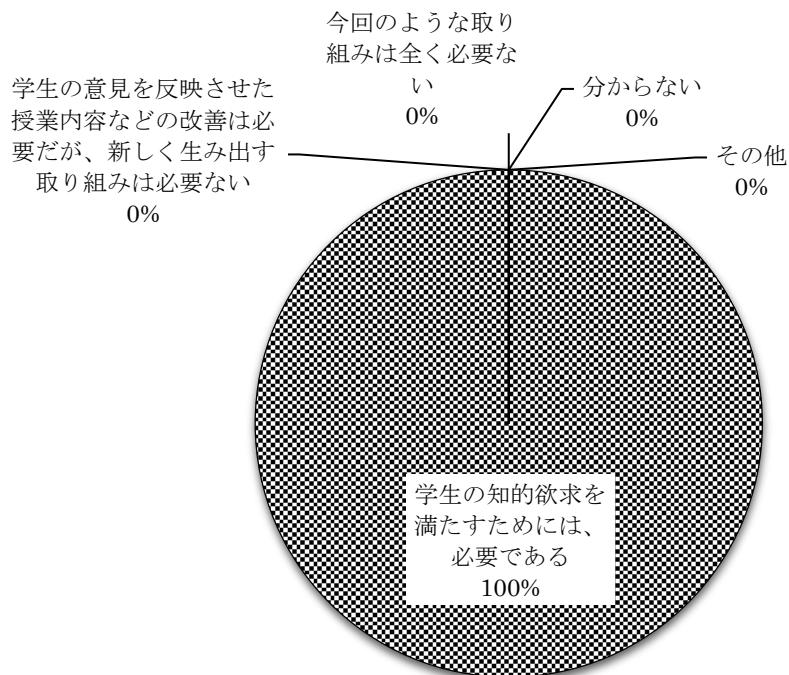


⑦ 今回の「フクトーク」で提案されたプロダクトの中で是非実現してほしいものはありますか。

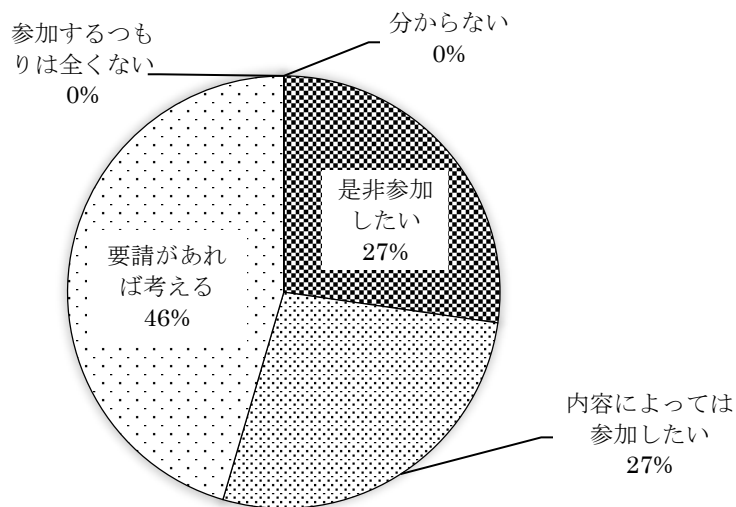


「ある」と答えた学生の提案など	人数
家庭科	1
マナー講座	2
授業を作る地域交流	2

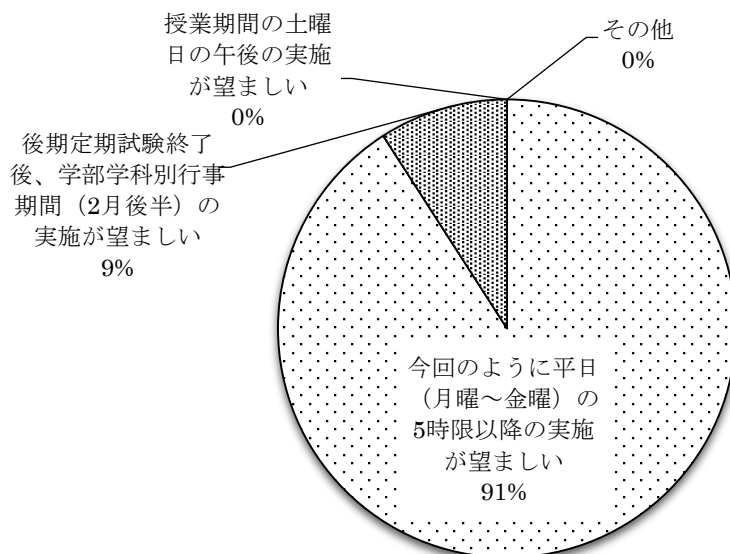
⑧ 今回、「教養教育科目 E 群」について議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく取り組みは、今後も必要とされますか。



⑨ 次回の「フクトーク」に参加したいと思いますか。



⑩ 「フクトーク」の開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑪ 「フクトーク」に参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 初めて参加したが、案外面白かった。
- アクティブラーニングが出来て良かったです。話が盛り上がり、時間が少なく感じた。
- 事前学習や調べ、意見のまとめを行っておくと、もっと良いディスカッションが出来ると感じた。
- とても良い機会になりました。ありがとうございました。